目黒区の元気！ 目黒区議会議員
かなこ元気NEWS

Vol.4

平成 29 年 1 月発行　発行:東京都目黒区目黒本町 5-27-17-403　電話・FAX03-6754-7733　発行人:目黒区議会議員 小林かなこ

アプリをダウンロードして、スマホをかざすと、動画が再生されます！詳しくは裏面下に！

＊今回はサプライズ！

Wi-Fiの整備促進と 2020 東京パラリンピック大会に向けて！

平成28年第3回定例会（一般質問）

詳細はこちら

◆遅れている目黒区のWi-Fi環境整備を促進しよう！

Q区は、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、Wi-Fiなど情報通信技術の活用を掲げているが、区内におけるWi-Fi環境整備は遅々として進んでいない。官民連携を含め、今後どのように進めていくのか。

（区）効果的なWi－Fi環境の整備について、6月に設置された「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会目黒区推進本部」で検討していく。

Q商店街を始めとした地域経済の活性化の観点からすれば、東京オリンピック・パラリンピックまでに、1つでも多くの商店街にWi－Fi環境を整備する必要がある。更に、終了以降も、地域経済活性化のため、引き続き区内のWi-Fi環境整備を着実に推進していくべき。

（区）利用者のニーズにあった情報の提供やコンテンツの充実を図ることによって、情報通信技術を使用した、商店街を含む地域全体の活性化に向けたまちづくりの可能性が広がっていくものと考えている。地域全体の活性化を支える基盤としてのWi-Fi環境の整備とその活用は、東京オリンピック・パラリンピック以降においても課題となるものと考えている。

詳細はこちら

◆2020 東京パラリンピック大会を契機に障害者スポーツをもっと推進しよう！

Q東京オリンピック・パラリンピックの成功のカギは、パラリンピックが握っている。「パラリンピックの成功なくして、オリンピックの成功なし」。本区には、例えば個人やチームの練習場所を提供するなどして頂きたいが、パラリンピックに対して、区としてどのような支援をしていくのか。

（区）オリンピックやパラリンピックの事前キャンプの受け入れを積極的に行うとともに、オリンピックの練習会場候補地の正式決定を待つだけでなく、パラリンピックにおける練習会場の誘致の取り組みも進めていく。

Q区立スポーツ施設のバリアフリー化は、障害のある方々が生き生きとスポーツできる環境整備として必須である。今後いかなる状況の変化があったとしても、バリアフリー化に限らず、障害者の方々が生き生きとスポーツできる環境整備を、確実に着実に進めていくべき。

（区）国や東京都などの補助金等を活用し、区の財政状況を考慮しながら、着実に整備できるように努めていく。バリアフリー化については、しっかりと努力をしていく。

防災協定都市・大分県臼杵市に学ぶ

昨年末、目黒区と災害時相互防災協定を締結している臼杵市を訪問しました。同市では、南海トラフ地震・津波対策として、ハード・ソフト両面から災害に強いまちづくり・ひとづくりを行っており、目黒区にとって大変参考となる数多くのことを学びました。

【ハード面】

〇緊急時避難路のループ橋は、災害時要配慮者対策のためスロープ式となっています。入口の看板は、避難時の混雑を心配した地元小学生のアイデアです。

【ソフト面】

〇女性防災士の活躍には目を見張るものがあります！裏面の「かなコラム」をご覧ください！

〇小中学生には「自分の命は自分で守る」ということを、高校生には次世代の防災リーダーとしての意識を持たせることを目指しています。津久見高校海洋科学校では、地元の食材で備蓄缶詰を年間千個製造し、イベント等で頒布して防災意識の向上に貢献しています。

女性の健康、子どもたちの国際理解教育を中心に質問！

平成28年度決算特別委員会

◆41歳～44歳の女性への乳がん検診個別通知を実施すべき！

Q現在、乳がん検診の個別通知を40歳と45歳から60歳までの女性に実施しているが、対象外とされている41歳から44歳の女性にも個別通知すべき。40歳から60歳まで、平等に、女性の健康を応援するという姿勢を見せていくべきではないか。また、30代の女性にも検診費用の一部助成などの工夫をして受診を促進してはどうか。

（区）今後、41歳から44歳についても個別通知が発送できるように、予算化に向けて努力をしていきたい。また、30代のがん検診をどのようにやっていくか、他の先進例等も見ながら今後考えていきたい。

詳細はこちら

◆子どもたちへの国際理解教育をもっと充実しよう！

Q小学校では、ALT（外国語指導助手）に英語の指導を任せてしまう事例もあるとの文科省報告があり、本区でもその傾向が見られていることから、この点についての現状と課題、そして対応策を伺う。

（区）本区では、ALTと担任が必ず子どもたちの前に立って、カリキュラムに従った役割分担で授業を進めている。更に、東京都により配置されている英語教育推進リーダーが、本区の中核となる教員を研修し、各校に行って助言したり、自ら授業を見せたりするということの中で、教員一人一人の指導力を上げていこうとしている。

Q国際社会を生きる子どもたちにとって、国際理解教育は更に重要となる。2020 東京オリンピック・パラリンピック大会は一つのゴールに過ぎず、それから先も目黒区らしい国際理解教育を推進するべき。また国際交流も間接から顔の見える直接交流にすべき。

（区）英語教育を一つの柱として、2020年以降も含めて安定した教育が推進できるような形で努力していきたい。実際の交流については、良いものは2020年以降も残していきたいし、ご指摘のとおり、直接交流にならないか模索している。

詳細はこちら

◆ラッピング・トランスボックスで商店街の活性化・街の美化を進めよう！

Q無電柱化の際に設置される地上変圧器（トランスボックス）に、ラッピングで広告や地域イベント紹介等をして、商店街活性化・地域振興に役立てるとともに、ラッピングによる落書き防止効果で街を美化している区がある。目黒区もトランスボックスをもっと有効に活用すべき。

（区）現在、目黒区の商店街にはラッピングしたトランスボックスはない。ぜひとも商店街の方の意見も聞きながら、区の中の関係所管とも連携して、商店街振興に役立つような、ご指摘のあった工夫については、これからも取り組んでいきたい。

質問の詳細はこちら

落書きされていると景観も悪くなります。（西小山）

特集ブログはこちら

落書きだけでなくシールも貼られてひどい状態です。（自由が丘）

ラッピングされたトランスボックスの一例です（高円寺）。詳しくは左記公式HPのブログで！

女性防災士 in 臼杵

かなコラム

●防災士とは？

自助・共助・協働を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人をいいます。

●女性は何人？

全国 121，560名中、16，102名（約13%）の女性防災士が活躍（このたび私も合格しました）。臼杵市では女性が516名中101名（約20%）と全国よりも高い状況です。

●女性の活躍ぶりは？

〇消防・防災というと男性の仕事のように思われるかもしれませんが、臼杵市では、全国初の女性防災士だけで結成された「うすき女性防災士連絡協議会」があり、女性ならではの視点・アイデアで大活躍しています！

〇様々な活動の中でも、マスコミで取り上げられた「段ボールトイレ作り」は有名です。トイレは避難所生活の最大の問題。これを解消するために救援物資の段ボールを活用したトイレ作りを考案しました。まさに女性ならでは！

これが段ボールトイレ！

〇その他、学校行事や婦人会、高齢者集会等に積極的に参加したり、女性視点で考えた防災講話やハンドブックを作成しています。女性防災士劇団「ひまわり一座」も立ち上げ、講演会等に参加できない方への出前講演も行っています！

●女性防災士・女性議員として

目黒区の防災士は、昨年末時点で178名で、そのうち女性は36名。臼杵市の女性防災士の活動も参考にしながら、私も女性の視点で、防災士として、議員として、区民の皆様の命と暮らしを守る活動にこれからも取り組んで参ります。

小林かなこ　プロフィール

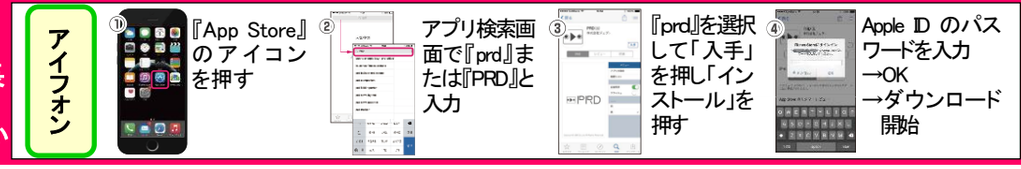
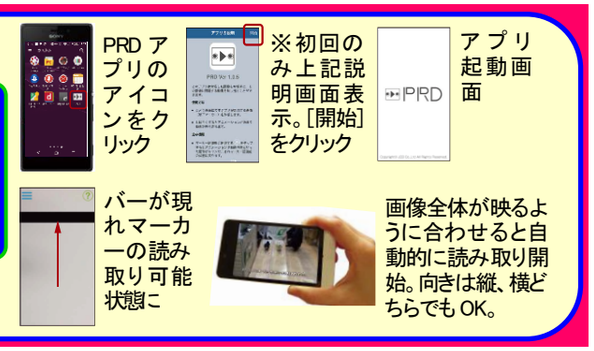
〇S52. 4. 12 生。山形県鶴岡市（湯田川）出身
〇筑波大学日本語日本文化学類卒業。アメリカの高校等で日本語・日本文化を教える。帰国後、米国教育団体で 11 年間勤務。国会議員秘書を経て目黒区議会議員となる。

＜所属＞
・自民党都連青年部女性対策副委員長
・目黒消防団第８分団
・東京ＪＣ目黒区委員会委員長ほか

小林かなこ 公式HP
目黒区の元気　検索

アンドロイド

アイフォン



使用方法